

事務事業シート(実施計画事前基礎シート)

(H.26)No.	1070-2	(H.25)No.	1070-2
-----------	--------	-----------	--------

事務事業名	病院群輪番制病院運営事業		
担当部局名	担当室名	室長名	
健康福祉部	福祉施策連携担当/地域医療室	岩名 静枝/山本有志	

会計区分	事業コード	250530
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款 衛生費	保健衛生総務費	
項 保健衛生費	(小事業名)	
目 保健衛生総務費	病院群輪番制病院運営事業	

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	1	互いに認めあい支えあう、健康で安心できる暮らし
	基本政策	4	健康長寿のまちづくり
	施策	2	地域医療
	小施策	2	救急医療体制の充実
重点施策コード	1-1.安心できる医療体制の整備(地域医療体制の整備)		

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
伊賀地域内において、二次救急患者の受入れ体制を確保することにより、地域で安心できる医療体制の整備を図る。
事業内容
伊賀地域の二次救急医療に対応するため、名張市立病院・上野総合市民病院・岡波総合病院が救急輪番体制を整備するにあたり、必要な運営経費の補助を行う。加えて、岡波総合病院に対しては、民間病院救急医療体制整備にかかる補助を行う。 なお、補助金の交付事務を平成26～28年度まで名張市が担当し、補助した経費のうち人口割合に応じ、伊賀市から負担金を徴収する。

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H.25年度(事業量・取組実績)	H.26年度(事業量・取組計画)	H.27年度(事業計画)	H.28年度(事業計画)	H.29年度(事業計画)
主な事業の実績・計画	医療体制推進費(病院群輪番制病院運営事業負担金関係) 総事業費 25,844千円 ○病院群輪番制病院運営事業 (@63千円×486コマ)×(81,652人/178,842人)=13,979千円 ○民間病院救急医療体制整備事業11,865千円 (単独実施@189千円×111コマ) ×(81,652人/178,842人)=9,578千円 (2病院実施@94,500円×53コマ)×(81,652人/178,842人)=2,287千円	総事業費 56,133千円 ○病院群輪番制病院運営事業 @63千円×486コマ=30,618千円 ○民間病院救急医療体制整備事業 (単独実施@189千円×108コマ)+(2病院実施@94,500円×54コマ)=25,515千円	平成26年度と同様に実施予定 (H26～28は名張市が事務局)	平成26年度と同様に実施予定 (H26～28は名張市が事務局)	平成26年度と同様に実施予定 (H29～31は伊賀市が事務局)

	H.25年度(決算見込)	H.26年度(作成時予算額)	H.27年度(計画予算)	H.28年度(計画予算)	H.29年度(計画予算)
①直接事業費	25,844千円	56,133千円	56,133千円	56,133千円	25,844千円
内訳(千円)					
国・県支出金					
地方債					
その他()		30,460	30,460	30,460	
一般財源	(0) 25,844	25,673	25,673	25,673	25,844
人工数					
職員	0.10人	0.10人	0.10人	0.10人	
臨時職員等	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	
②概算人件費	(0千円) 760千円	760千円	760千円	760千円	0千円
①+②総事業費	(0千円) 26,604千円	56,893千円	56,893千円	56,893千円	25,844千円

4. 担当室による事務事業の点検 (*点検等による成果向上や見直しが困難な事業(法令等による義務的経費、災害復旧等緊急事業などは点検対象外)

考察(H.25年度の取組評価、課題)	今後の対応方針(課題解決への取組、工夫・改善の内容)
医師確保等の事業を実施した結果、名張市立病院の医師は徐々に増加し、二次救急受入体制は改善されてきたが、伊賀地域全体の二次救急体制を構築するには、3病院の連携強化が必要であるため、定期的に三病院長会議を開催している。3病院の医療資源を効率・効果的に活用する取り組みを進めることが課題である。	名張市立病院の医師は増加したが、3病院だけで伊賀地域の二次救急医療を完結するまでには至っていないため、引き続き医師確保に努める。また、伊賀地域全体の二次救急体制に関する3病院長会議を継続する。更に、三重大、県を含めて伊賀地域の医療体制について検討を進めていく。

点検項目	内容(施策達成への貢献内容、連携・協働の実践・検討内容)
(1) 事業内容や取組成果は、総合計画の施策達成に貢献しているか B(いずれかの施策指標達成に貢献又は基本方針達成に貢献)	名張市立病院を中心として、上野総合市民病院、岡波総合病院との機能分担、連携を強化し、市民が安心できる救急医療体制の構築に貢献できた。
(2) 地域づくり組織、市民活動団体等との連携・協働は図れないか 実践している(※実践内容を記載→)	地域住民の安心・安全な生活の確保を図っている。

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合検討、休止検討、廃止検討、事業完了(予定含む)	継続(現行)
具体的な見直し内容・検討内容、継続の理由	6. 事務事業の取組に関する主な市の計画
市民が安心して生活するためには、伊賀地域の3病院が連携して二次救急医療体制を構築することが必要であるため、現行どおり継続する。	